

## 『文選』の正文と注文における訓点の異同について

——「西京賦」を例にして——

佐藤 進

### 一 はじめに

日本における『文選』の伝来、読解、利用の歴史はかなり古く、文章内部に影響を認める内証としては、聖徳太子の十七条憲法（推古朝十二年604）に『文選』の語句の利用が見られるといい、また、外証として史籍にとどめる書名を求めるなら、『令義解』（883年）に引く養老律令（757年）・選叙令（秀才進士条）には「進士取明閑時務、并讀文選爾雅者（引用者・進士は明らかに時務に閑（な）れ、並びに文選爾雅を讀むものを取れ）」とあるのがそれであるという（岡田1954,p.171、また小島1962,p.p.81-82など）。また、李善注については、『日本書紀』（養老四年720）の編纂、ことにその文体の潤色にあたって、李善注を利用したことが見て取れるという調査がある（小島1962,p.p.358-368など）。

奈良朝にあつて『文選』を訓読によって讀んだか否かについては、いわゆる九条本文選（九条家伝来の無注本三十卷系統『文選』残卷）の和訓に見える「書記の様式や語彙語法」が奈良朝の訓読語の残存であるという判断によって、訓読で讀んだことが知られている（小林1967,p.524）。

いま我々が手軽に利用する『文選』の訓読は慶安五年（1652）初版、寛文二年（1662）重刊の『六臣註文選』のそれである（寛文版は、慶安版の刊記を埋木で改めただけで、内実は慶安版と同版であるという、斯波 1957, p.80）。ここに付された訓点は、右の九条本や足利学校遺跡図書館蔵宋明州刊本（足利学校第九代庠主・三要の加点・宮内庁書陵部蔵宋贛州刊本などと基本的には同じもので、しかも、有注の足利本・書陵部本の正文訓点は必ずしも底本の注文に依拠せず、菅家など博士家旧伝の訓点を移点したものであろうという（斯波 1957, p.43 および同書 p.79）。

しかし、影印『和刻本文選』の長沢規矩也の解説には「この本の訓点がときに三要の點と一致せず、同じ訓讀でも假名の多少の差があることは、底本が足利本に據つたものでないことを示す。恐らく、この慶安刊本の上梓に當つては、訓点を底本に移寫したものでなくて、加點の明刊本を底本に使用したものであろう」と述べられている。ただ、刊行の底本にすることと訓読を移点することとは、必ずしも同じことを意味しないように、この推測にいうところの「加點の明刊本」の訓点が三要点を移点したか否かについても検証する余地が残されていよう。いまのところ、不敏にしてそれについての詳細な研究があることを聞かない。

さらに厄介なことであるが、足利本も書陵部本も正文には訓点がほどこされているけれども、注文には訓点がついていない（書陵部本については吉田 1959）。李善注の訓点を確認するには、江戸期の慶安本や寛文本をひもとくほかに方法がないのである。

本稿は、『文選』正文のうち、李善注に最も数多く引用された張衡「西京賦」（富永 1996, p.xxiii）の正文と李善注所引の西京賦の訓点を対照して、それらの間にいかなる異同があるかを観察したものである。李善注のなか二二〇箇所で、「西京賦」のなかの一六八句の引用が見られる。これらの相互の異同を見ることによって、奈良平安期の古点を引き継いだという正文の訓読と、恐らくそれとは別の伝承過程を有したであろう李善注の訓読の相違を考える手がかりになろう。さらには、正文と双行夾注を有する刊本の上梓にあたって、夾注の訓点にいかなる省略が行われたか、その傾向を知ることにもなる。

二 西京賦本文と李善注所引西京賦の訓読

【凡例】

- (一) 調査の底本は家蔵の寛文二年（1662）版『六臣注文選』であるが、汲古書院影印の慶安五年（1652）版をも参照した。
- (二) 行頭の番号は李善注に引用のある西京賦を摘録した通し番号である。
- (三) 通し番号の次のたとえば「1・57」は、西京賦が収録される寛文版（＝慶安版）文選の第一丁、ウラ七行目の意である。
- (四) 同じ行に本文原文、本文訓読と続く。本文訓読に二種の訓読が認められる場合はそれを次行に【】で示した（26など）。
- (五) 訓読は、正文注文にかかわらず、すべて書き下し文で表記した。
- (六) 書き下しの表示は、訓読みはひらがなで示し、音読みで字音が付されているものは（）内にカタカナで示した。
- (七) 助詞助動詞及び活用語尾はカタカナで示し、和訓の語幹部分はひらがなで示した（便宜的処置に過ぎない）。
- (八) 原書で送仮名がないものについては、推定で「」の中に入れて示した。
- (九) 本文・李善注ともに音合符は【一】で訓合符は【一】で表わした。
- (十) 通し番号の次行から李善注を掲げる。行頭の数字は、たとえば「4・35」は巻十四三丁ウラに当該句が所在する意である。
- (十一) 以下の十二条は西京賦として引用されるが、実際には（）に入れた賦題が出典なので調査の対象外とした。

6・11a 備致嘉祥（東京賦）

7・20b 具惟帝臣（東京賦）

7・28b

勸穡於原陸（出典不詳）

11・47b	金鉤銜壁、是爲列錢（西都賦）	11・35a	表賢簡能（東京賦）	13・23b	眇天末以遠期（東京賦）
28・41a	龍輶華轡（東京賦）	31・1a	南望杜瀨、北眺五陵（西都賦）		
36・9b	慨長思而懷古（東京賦）	38・18a	步毀垣而延竚（西征賦）	46・34b	葩瑤曲莖（東京賦）
54・36a	區宇乂寧（西都賦）				

No. 丁・行 本文

本文訓読【又読】

注卷・丁表裏

注書き下し

コメント

1	1・b7	學乎舊史氏	舊史氏ニならへり	學、訓読みなし、送仮名なし
	14・3b		舊史氏ニ學〔フ〕	
2	2・a1	夫人在陽時則舒	夫レ人陽ノ時ニ在テハやすシ	在・舒、送仮名なし
	55・13a		人陽ノ時ニ在〔テ〕舒	
3	2・a1	在陰時則慘	陰ノ時ニ在テハうれフ	在・慘、送仮名なし
	55・13a		陰ノ時ニ在〔テ〕慘〔フ〕	
4	2・a8	小必有之	小ナルモ必之レ有リ	同文
	16・1b		小ナルモ必之レ有リ	
5	2・b2	大亦宜然	大ナルモ亦宜ク然ルベシ	同文
	16・1b		大ナルモ亦宜ク然ルベシ	

6	2・b8	周即豫而弱	周ハ豫ニ即テ弱シ	
	4・1b		周ハ豫ニ即テ弱シ	同文
7	3・b1	綴以二華	めぐらすニ二華ノやまヲ以せリ	
	10・20b		綴スニ二華ヲ以ス	綴、訓なし。二華「ノやま」なし
8	3・b1	巨靈鼯肩	巨一靈ノおほかみ鼯一肩トちからおこシテ	
	5・10a		巨一靈鼯一肩ス	巨靈、鼯肩、文選読みなし(鼯肩ス)
	10・20b		巨一靈鼯一肩シテ	巨靈、鼯肩、文選読みなし(鼯肩シテ)
9	3・b2	高掌遠蹠	掌ヲ高シ蹠ヲ遠シ	
	10・20b		掌ヲ高シ蹠ヲ遠シテ	…シ↓シテ
10	3・b2	以流河曲	以テ河一曲ヲ流セリ	
	10・20b		以テ河一曲ヲ流セリ	同文
11	3・b8	隔閼華戎	華一戎ヲへだテかぎレリ	
	10・22a		華一戎ヲ隔テ閼テ	隔閼、訓なし
12	3・b8	岐梁汧雍	岐一梁汧(ケン)雍あテ	
	10・22a		岐一梁汧一雍アリ	アリ(終止形)
13	4・a4	陳寶鳴鷄在焉	陳一寶鳴一鷄ノナルかみひカルかみ在リ	
	56・25a		陳一寶鳴一鷄在リ	ツの挿入(促音便)
14	4・a5	於前則終南太一	前二ハ終一南ノやま太一ノやま	文選読みなし

	10・22b		前ニハ終一南太一	ヤマの補読なし
	11・26a		終一南太一	合符のみ
15	4・a6	隆嶠崔崒	隆一嶠崔一崒トたかクさかシウシテ	
	11・26a		隆一嶠崔一崒タリ	文選読みなし
16	4・a6	隱麟鬱律	隱一麟鬱一律トかたがひナリ	
	22・35b		隱一麟鬱一律	文選読みなし、合符のみ
17	4・b1	連岡乎蟠冢	をかヲ蟠冢(チヨウ)ニ連ネ	
	10・22b		岡ヲ蟠冢ニ連ヌ	岡に訓なし、冢に字音なし
18	4・b5	於後則高陵平原	後ニハ高一陵平一原あり	
	10・22b		後ニハ高一陵平一原あり	同文
19	4・b6	澶漫靡迤	澶一漫トひろクおおきニシテ靡一迤トななめニシテ	
	30・10b		澶一漫靡一迤	文選読みなし、合符のみ
20	4・b9	其遠則有九嶮甘泉	其ノ遠ニ八九一嶮甘一泉有リテ	
	10・46b		九一嶮甘一泉	九嶮甘泉のみ切り出し
21	5・a1	涸陰沍寒	涸一陰ニシテさへ寒シ	
	10・46b		涸一陰ニシテさへ寒シ	同文
22	5・a8	寔為地之奧區神臯	まことニ地ノ奥一區神一臯ナリトす	
	10・23b		まことニ地ノ奥一區神一臯ナリトす	同文(ス、爲の右下)
	46・31b		寔ニ地ノ奥一區神一臯ナリト為	寔、ニの送仮名あり。為、読仮名なし

『文選』の正文と注文における訓点の異同について

29	7・b4	疏龍首以抗殿	龍一首ヲおさメテ以テ殿ヲあゲタリ	
28	7・b4 7・10b 56・24a	表嶢闕於閭闔	嶢一闕ヲ閭一闔ニ表ス 嶢一闕ヲ閭一闔ニ表ス 表、送仮名なし	同文
27	7・b1 7・10b 21・7a 56・24a	正紫宮於未央	紫一宮ヲ未一央ニ正シテ 紫一宮ヲ未一央ニ正〔ス〕 紫一宮ヲ未一央ニ正〔ス〕 紫一宮ヲ未一央ニ正〔ス〕	正、送仮名なし 正、送仮名なし 正、送仮名なし 正、送仮名なし
26	7・a1 6・12a 6・21a	取殊裁於八都	殊ナルつくりヲ八一都ニ取ル 殊ナル裁リヲ八一都ニ取ル 城一漚ヲ經〔シ〕	裁、送仮名のみ 裁、送仮名のみ 經、送仮名なし
25	7・a1 44・30a	經城漚營郭	城一漚ヲ經シ郭一郭ヲつくる 【城一漚ヲたテ郭一郭ヲつくる】	
24	6・a5 6・a5 44・30a	天啓其心	天其ノ心ヲ啓テ 天其ノ心ヲ啓テ	啓、送仮名なし
23	5・a9 6・35b	昔者大帝悅秦繆公而覲之	昔シ大一帝秦ノ繆公ニ悦シメテ覲す 大一帝秦ノ繆公ニ説〔シメテ〕覲す	悦作説、送仮名なし
	60・7b	寔惟地與一區神一臯	寔一惟地與一區神一臯 寔ニ惟一地ノ與一區神一臯ナリ	寔作實・為作惟、返点なし 為作惟

- 22-20a 龍一首ヲおさメテ以テ殿ヲ抗〔グ〕 擧、送仮名なし、善曰廣雅曰抗擧也
- 46-32b 龍一首ヲおさメテ以テ殿ヲあゲタリ 同文
- 30 7-b9 蒂倒茄於藻井  
さかさまナルはちすヲ藻一井二ねざシ  
【さかさまナルはちすヲ藻一井二ほぞつケリ】
- 6-14a 倒ナルはちすヲ藻一井二ねざシ 倒、送りのみ。蒂、ねざし
- 11-48a 倒ナルはちすヲ藻一井二蒂〔シ〕 蒂、訓なし・送仮名なし
- 31 7-b9 披紅葩之狎獵  
紅のはなびらノ狎一獵トかさなレルヲ披ケリ 狎獵、文選読みなし
- 6-14a 紅ノ葩ヒラ狎一獵ヲ披ケリ 狎獵、文選読みなし
- 32 8-a6 彫楹玉碣  
彫レレルはしら玉ノつはみいし  
【彫レレルはしら玉ノつはみいし】
- 11-49a 彫レレル楹ヲ玉ノ碣シ 彫作彫、楹ヲ、碣シ
- 31-10b 彫一楹玉一碣 合符のみ
- 33 8-a6 繡栢雲楣  
ぬひものノとかた雲ノまくさ  
繡一栢雲一楣 合符のみ
- 31-10b 繡一栢雲一楣 合符のみ
- 34 8-b9 坻崿鱗胸  
坻一崿鱗一胸タリ 文選読みなし
- 6-14b 坻一崿ノもと井鱗一胸 坻崿のみ文選読み
- 11-43a 坻一崿ノもと井鱗一胸 坻崿のみ文選読み
- 35 9-a8 洪鐘萬鈞  
洪一鐘萬一鈞ニシテ 同文
- 7-23b 洪一鐘萬一鈞ニシテ 同文



36	9・a9 7・23b	猛虜趙趙 猛虜趙趙タリ	猛一虜趙一趙タリ	同文
37	9・b4 7・22a	乃奮翅而騰驤 すなはち翅ヲ奮テこエハス すなはち翅ヲ奮テ騰一驤ス	訓読み↓音合符	
38	9・b5 28・22b	西有玉臺 西ニハ玉一臺有リテ 西ニ玉一臺有〔リ〕	ハなし	
39	9・b6 28・22b	聯以昆德 聯ヌルニ昆一徳ヲ以セリ 連ニ昆一徳ヲ以〔テす〕	聯作連。以、送仮名なし	
40	9・b6 11・45a	嗟峨嵯嵯 嗟一峨嵯一嵯トカクさかしウシテ 嗟一峨嵯一嵯トシテ	文選読みなし	
41	9・b7 11・45a	罔識所則 則ル所ヲ識ルコト罔シ 則ル所ヲ識ルコト罔シ	同文	
42	9・b8 26・4a	若夫長年神仙 若シ夫レ長一年神一仙 若〔シ〕夫〔レ〕長一年神一仙	若・夫、末仮名なし	
43	9・b9 26・4a	宣室玉堂 宣一室玉一堂	同文、合符のみ	
44	10・a1 26・4a	(譬)衆星之環極 衆一星ノ極ニ環リ 衆一星ノ極ニ環〔リ〕	環、送仮名なし	

45	10・a1	叛赫戯以輝煌	叛一赫トてり戯以テ輝一煌トてレルニ譬フ	
	26・4a		叛一赫義トシテ以テ輝一煌タルニ譬〔フ〕戯作義。文選読みなし。譬、送仮名なし	
46	10・a5	大厦耽耽	大一厦耽一耽（タンタン）トふかし	
	11・43a		大一厦耽一耽	合符のみ
47	10・a9	九戸開闢	九一戸開一闢トひらケリ	
	11・54a		九一戸開一闢	合符のみ
48	10・b1	嘉木樹庭	よき庭ニうエ	
	11・56b		嘉一木庭ニ樹〔へ〕	嘉木、訓合のみ
	22・6b		よき一木庭ニ樹〔フ〕	嘉、訓あり
49	10・b1	芳草如積	芳シキ草積レルガ如シ	
	11・56b		芳一草積ガ如シ	芳草、訓合↓音合
50	12・a1	流懸黎之夜光	懸一黎ノたまノ夜一光ヲ流シテ	
	1・17a		懸一黎之夜一光ヲ流ス	懸黎、文選読みなし
51	12・a4	金卮玉階	こがねすりノみぎり玉ノはしあり	
	34・33b		金一卮玉一階	合符のみ
52	12・b2	於是鉤陳之外	是ニ於テ鉤一陳ノ外ニハ	
	7・3a		鉤陳ノ外	外、送仮名なし
53	12・b2	閣道穹隆	閣一道穹一隆タリ	
	7・3a		閣一道穹一隆す	…す、被注「鉤陳」

	11・10b	閣一 道穹一 隆タリ	同文（タリ）、被注「穹隆」
54	12・b6	命般爾之巧匠	般一 爾ノ 巧匠ニ 命ジ
		【般一 爾ガ 巧匠ニ 命ジ】	
	7・12b	般一 爾ノ 巧匠ニ 命ジ	同文（ノ）
55	12・b8	盡變態乎其中	あやしきたくみヲ其ノうちニ盡セリ
	18・34a	變一 態ヲ 其ノ 中ニ 盡ス	變態・中、訓なし
56	13・a3	恣意所幸	意ノねがフ所ヲ恣ニシテ
	31・44b	意（ヲ）恣（ニシ？）幸（スル？）所	恣レ意所レ幸、返り点疑問あり
57	13・a4	下輦成燕	輦ヨリをリテ燕ヲ成ス
	31・44b	輦ヨリ下（リ）宴ヲ成（ス）	燕作宴
58	13・a4	窮年忘歸	年ヲ窮メテ歸ンコトヲ忘ル
	12・34a	年ヲ窮メテ歸コトヲ忘ル	歸、コトのみ送る
	29・47b	年ヲ窮（メテ）歸コトヲ忘ル	歸、コトのみ送る。窮、送仮名なし
59	13・a4	猶弗能徧	猶ヲあまねクスルコト能ワズ
	12・34a	猶徧コト能ず	徧、コトのみ送る。不能、送仮名なし
60	13・a8	雖斯宇之既坦	この宇ノ既ニおおいナルト雖ドモ
	11・1b	斯ノ宇ノ既ニおおいナルト雖（ドモ）	雖、送仮名なし
61	13・b1	思比象於紫微	象ヲ紫微ニ比ベンコトヲ思ヒ
	11・25a	象ヲ紫微ニ比ベンコトヲ思ヒ	同文

- 62 14・a1 通天諺以竦峙  
7・6a  
30・23a  
63 14・a2 徑百常而莖擢  
30・23a  
35・9a  
64 14・a6 翔鶻仰而弗逮  
34・34a  
65 14・a7 伏櫺檻而頰聽  
11・53a  
66 14・b7 圓闕竦以造天  
12・18b  
24・5b  
56・24b  
67 14・b7 若雙碣之相望  
56・24b  
68 14・b8 鳳騫翥於薨標  
14・b8
- 通一 天諺トはるかニシテ以テ竦一峙トあがりたテリ  
通一 天諺トシテ以テ竦一峙タリ 文選読みなし、音読（注曰通天臺名）  
通一 天諺カニシテ以テ竦リ一峙テリ 諺作眇、文選読みなし、訓読  
百一 常ヲわたりテただニぬきでタリ  
百一 常ヲ勁リテただニ一擢でタリ 送仮名あり（被注百常、注曰臺名）  
百一 常ヲ勁リテ莖ニ一擢ク 擢、ぬク（善曰獨出貌、良曰拔也）  
翔一 鶻仰トモ逮バズ  
翔一 鶻仰テ逮バズ 弗作不。仰、テを送る  
櫺一 檻ニよりテ頰シテ聽ク  
櫺一 檻ニよりテ頰シテ聽ク 同文  
圓一 闕竦トあがりテ以テ天ニいたレリ  
圓一 闕竦〔テ〕一以〔テ〕天ニ造〔ル〕 圓闕、文選読みなし  
圓一 闕竦トシテ以テ天〔ニ〕造レリ 竦・以・造、送仮名なし  
闕竦〔テ〕一以〔テ〕天〔ニ〕造〔ル〕 文選読みなし  
送仮名なし  
雙一 碣ノ相ヒ望メルガ若シ  
雙一 碣ノ相〔ヒ〕一望ガ若〔シ〕 相、送仮名なし。  
鳳いらかノすゑニ騫一翥トはふリテ 若、末仮名なし  
【鳳いらかノはしニ騫一翥トはばたきシテ】

69	6・19b 7・23b 15・a3	鳳薨ノ標ニ騫一翥シ 鳳いらかノはしニ騫一翥ス 咸クニ風ヲ遡テ翔ント欲ス 咸クニかぜニむかフテ翔ント欲ス	薨・標、訓なし、騫翥、文選読みなし 薨・標、訓読み。騫翥、文選読みなし
70	6・19b 15・a4 11・48a	何工巧之瑰璋 何ゾ工一巧ノ瑰一璋トあやしキ 何ゾ工一巧ノ瑰一璋	遡・翔・欲、送仮名なし 文選読みなし
71	15・a7 6・20a 11・48a	交綺豁以疏寮 交一綺豁トほがらかニシテ以テえレルまどあり 文一綺豁カニシテ以テ疏レル寮あり 文一綺豁ト【ニシテ】以テ疏ル一寮あり	豁、文選読みなし 疏寮、訓なし 豁、文選読みなし、送り二種
72	35・10a 15・a7	干雲霧而上達 雲一霧ヲ干シテ上ニ達セリ	同文（干シテ）
73	11・57b 15・a8 6・21b	狀亭亭以岩岩 かたち亭一亭トたかウシテ岩一岩トはるかナリ 狀チ亭一亭トシテ以テ茗一茗タリ	同文（干シテ） 茗作茗、文選読みなし
74	54・25b 15・a9	峙遊極於浮柱 遊一極ヲ浮一柱ニをイテ	狀、末仮名なし

28・20a	遊一極ヲ浮一柱ニ峙〔イテ〕	峙、送仮名なし
75 15・b6 22・33b	宛一虹ノ長キはたヲみテ 蜿一虹ノ長キはたヲ瞰〔テ〕	宛作蜿、瞰字に訓なし
76 16・a5 6・19b	將乍往而未半 將ニしばらク往ントシテ未ダ半ばならザルニ 將ニ乍ラク往ント而未ダ半バ〔なら〕ざルニ 而、シテ・テなし	
77 16・a5	恍悼慄而聳兢 恍悼（タウ）トおそれ慄トおののキテ聳一兢トをそろシ	
78 6・19b 16・a6	非都一盧ノ輕クとキニ非バ 都一盧ノ輕クとキニ非バ	文選読みなし
79 16・a9 6・19b	孰能超而究升 たれカ能クこえテ究メ升ラン	超、訓なし
80 16・b3 11・43a	反宇業業 反レルのき業一業トシテ	文選読みなし
81 16・b4 11・43a	飛檐轍轍 飛一檐轍一轍（ケツケツ）トたかシ	合符のみ
82 17・a5 11・53a	連閣雲蔓 連一閣雲ノ如クニ蔓〔ベリ〕	蔓、訓送仮名なし、雲、ノ如ニあり

83	17・a7	重閨幽闔	重一閨幽一闔あツテ	
	24・39a		重一閨幽一闔	合符のみ
84	17・a8	望苻篠以徑廷	望メバ苻一篠トふかうシテ以テ徑一廷トをこがまし	
	11・28b		望メバ苻一篠トシテ以テ徑一廷タリ	文選読みなし
85	17・b6	横西漚而絶金塘	西一漚ヲ横わりテ金一塘ヲわたレリ	
	10・27b		西一漚ヲ横リテ金一塘ヲわたレリ	横、送りの違いあり
86	18・a7	滄池潏沆	滄一池潏一沆（カウ）トふかクおほいナリ	
	4・6a		滄一池潏一沆	合符のみ
				「潏沆」薛綜注猶沆濂亦寛大也
87	18・a8	赫眡眡以弘敞	赫トさかりニ眡（コ）一眡トあきらかニシテ以テ弘一敞（シャウ）トほがらかなリ	
	18・26		赫タル眡一眡以テ弘一敞タリ	文選読みなし、赫、音読み
	30・22a		さかりニ眡一眡トシテ以テ弘一敞ナリ	文選読みなし、赫、訓読み
88	18b1	夾蓬萊而駢羅	蓬一萊ヲはさミテならビつらなレリ	
	16・12a		蓬一萊ヲ夾テな〔ら〕ビ一羅ナレリ	駢、ナ：ヒ。而、不読
			被注「駢羅トナラビツラナレリ」	
89	18・b4	長風激於別隄	長一風別一隄ニそそゲ	
	5・38a		長一風別一隄ニ激〔グ〕	隄作島（拠五臣本）、被注「長風」
90	18・b5	起洪濤而揚波	洪一濤ヲ起シテ波ヲ揚ゲ	
	12・1b		洪一濤ヲ起シ波ヲ揚〔グ〕	起シテ→起シ、揚、送仮名なし

- 91 24・7a 濯靈芝以朱柯 洪一濤ヲ起シテ波ヲ揚ゲ 同文  
 18・b9 靈一芝ノあかシキえだヲすすグ  
 23・24a 靈一芝ノ朱キ一〔え〕ダヲ濯〔グ〕 濯無訓  
 23・24a 靈一芝ノ朱キ一〔え〕ダヲ濯〔グ〕 濯無訓  
 35・12a 靈一芝ノ朱一柯ヲ濯〔グ〕 濯無訓、朱柯（訓合↓音合）  
 92 18・b9 海若游於玄渚 海一若ノわだつみ玄一渚ニ游フ  
 10・47b 海一若玄一渚ニ游フ 文選読みなし  
 26・31b 海一若玄一渚ニ游〔フ〕 文選読みなし。游、送仮名なし  
 93 19・a7 屑瓊藥以朝飧 瓊一藥ヲくだイテ以テ朝ニ飧フ  
 16・22b 【瓊一藥ヲすりくづニシテ以テあさごとニ飧フ】 同文（屑、クダイテ）  
 94 19・b2 美往昔之松喬 往一昔ノ松喬ヲよみシテ 同文（屑、クダイテ）  
 56・43a 往一昔ノ松喬ヲよみシテ 同文  
 95 19・b2 羨門乎天路 羨門ヲ天一路ニもとム 同文  
 56・43a 羨門ヲ天一路ニもとム 同文  
 96 19・b7 若歷世而長存 若シ世ヲ歴テ長ク存セラバ 長・存、送仮名なし  
 28・13a 若シ世ヲ歴テ長〔ク〕存〔セバ〕 長・存、送仮名なし  
 47・42b 若〔シ〕世ヲ歴テ長〔ク〕存〔セバ〕 長・存、送仮名なし。若、末仮名なし  
 97 19・b9 則旁開三門 かたがた三一門ヲ開テ



	7・21b	かたがた三ノ門ヲ開テ	同文
98	20・a6	北ノ闕甲ノ第	同文、合符のみ
	4・34a	北ノ闕甲ノ第	同文
	30・45b	北ノ闕甲ノ第	同文
99	20・a6	道ニ當テただちニ啓ケタリ	直、訓なし
	4・34a	道〔ニ〕當〔テ〕直ニ啓ク	被注「衢(みち)ニ當リ」
	30・45b	道ニ當〔テ〕直ニ【椒ノ蘭〔ヲ〕】啓〔ク〕	當・啓、送仮名なし 椒蘭、被注「甲第椒與蘭」
100	20・a7	木ニハ締(テイ)ノ錦ヲキセ	木、ハなし。衣、送仮名なし
	6・15b	木ニ締ノ錦ヲ衣〔セ〕	
101	20・a8	武ノ庫ノ禁ノ兵	ノなし
	5・24b	武ノ庫禁兵	
	6・20b	武ノ庫ノ禁ノ兵	同文
102	20・a8	設テ蘭ノ錡ニ在リ	同文
	5・24b	設テ蘭ノ錡ニ在リ	同文
	6・20b	設テ蘭ノ錡ニ在リ	同文
103	20・b9	俯テ百ノ隧ヲ察ル	同文
	6・28a	俯テ百ノ隧ヲ察ル	同文

104	21・a5	鳥集鱗萃	鳥ノ如クニ集リ鱗ノ如クニ萃マレリ	
	55・10a	鳥「集リ鱗」萃「ル」		ノ如クニなし。萃、送仮名なし
105	21・b3	何必昏於作勞	何ゾ「必シモ作」勞ヲつとメン	
	7・25a		何「ゾ」「必シモ作」勞ヲつとメン	何、ゾなし
106	22・a1	連騎相過	騎ヲ連テ相ヒ過ル	
	4・36b		騎ヲ連テ相ヒ過ル	同文
107	22・a5	張趙之倫	張趙ガと「もが」ら	
	21・36b		張趙ガと「もが」ら	同文（ト倫ヲ）
108	22・a6	輕死重氣	死ヲ輕ジテ氣ヲ重ジ	
	34・38b		死ヲ輕「ジテ」氣ヲ重「ジ」	輕・重（動詞扱い）、送仮名なし
109	22・a6	結黨連羣	黨ヲ結テ羣ヲ連タリ	
	34・38b		黨「ヲ」結「テ」羣ヲ連「タリ」	結・連、送仮名なし
110	23・a9	所惡成瘡瘡	にくミンスル所ニハ瘡「瘡」ヲ成ス	
	23・21a		惡スル所ニハ瘡「瘡」ヲ成ス	惡、訓なし、…スル
	50・29a		惡ム所創「瘡」ト成ル	惡、惡ム
111	23・a9	鄉邑殷賑	鄉「邑殷」賑トさかりナリ	
	46・17a		鄉「邑殷」賑トさかりナリ	合符のみ、文選読みなし
112	24・a8	繚垣縣聯	めぐレルかき縣「聯」トつらなりテ	
	6・22b		繚レル「垣縣」連タリ	繚、訓なし

113	24・b4 10・48a	散似驚波	あらクルコト驚一波ニのり 散ジテ驚一波〔ト〕爲〔ル〕	聯作連。縣連、文選読みなし 似作爲。驚波・爲、送仮名なし
114	25・a1 10・37a	林麓之饒	林一麓ノゆたかなナルコト 林一麓ノ一饒	文選読みなし、ノ下訓合あり 文選読みなし、ノ下訓合なし
115	20・16a 25・a2 10・37a	于何不有	何ニおいてカ有ラ不 何ニ于カ有ラ不 何ニ于テカ有〔ラ〕不 何ニ于テカ有〔ラ〕不〔ン〕	于、訓なし 有、送仮名なし 有・不、送仮名なし
116	25・a5 20・16a	嘉卉灌叢	よきくさ灌一叢トあつマレリ よきくさ灌一叢トあつマル	和訓・文選読みあり、ほぼ同文
117	25・b2 9・20b	笨尊蓬茸	笨一尊蓬一茸トさかりニシテ 笨一尊蓬一茸	文選読みなし、合符のみ
118	26・a6 10・47a	豫章珍館	豫一章ノ珍一館 豫一章ノ珍一館	同文
119	26・a6 10・47a	掲焉中峙	掲一焉トシテなかニそばだテリ 掲一焉トシテなかニそばだテリ	同文
120	26・a9	日月於是乎出入	掲一焉トシテなかニそばだテリ	ひつき是ニ於テ出テ入ル

121	10・47a 26・b8 4・7b	駕鶯鴻鶻	日一月是ニ於〔テ〕出テ入ル 駕鶯鴻鶻アツテ	日月、音合符 アツテなし、合符のみ
122	26・b9 20・31b	南翔衡陽 北棲鴈門	南ノ方衡一陽ニ翔リ 南ノ方鴈一門ニ棲ム	同文
123	26・b9 20・31b	北棲鴈門	北ノ方鴈一門ニ棲ム	同文
124	28・b2 34・33a	戴翠帽倚金較	翠一帽ヲ戴テ金較ニ倚ル	戴・倚、送仮名なし
125	29・a4 7・22a	華蓋承辰	華一蓋辰ニ承ケ	同文
126	29・a6 31・49a	天畢前驅	天一畢前一驅ス	同文
127	29・a7 56・14b	千乘雷動	千一乘雷ノ如クニ動キ	雷動、訓合。合符のみ
128	29・a7 56・14b	萬騎龍趨	萬一騎龍ノ如クニ趨ル	龍趨、訓合。合符のみ
129	29・b9 7・3b	於是蚩尤秉鉞	是ニ於テ蚩尤まさかりヲ秉テ 蚩尤鉞ヲ秉テ	鉞、訓なし

130	29・b9	奮鬣被般	たてかみヲ奮ヒ般ヲ被レリ	
	7・3b		【たてかみヲ奮ヒとらのかわヲ被レリ】	鬣、訓なし
131	30・b6	睢盱拔扈	睢一盱(ク)トめみはり拔一扈トふれはだかる	合符のみ
	11・34b		睢一盱拔一扈	合符のみ
	44・9a		睢一盱拔一扈	合符のみ
	48・13b		睢一盱拔一扈	合符のみ
	55・15b		睢一盱シ拔一扈ス	送仮名あり(…シ、…ス)
	60・3a		睢一盱拔一扈	合符のみ
132	30・b7	躑聲震海浦	かまびすシキこえ海一浦ニ震フ	
	22・30a		躑一聲海一浦ニ震フ	躑聲、音合符
133	31・a5	百禽凌遽	ももノけものおぢすみやかニシテ	
	22・25b		ももノ〔け〕もの凌〔チ〕一遽〔ナリ〕	凌作凌、送仮名なし。凌遽、訓合のみ
				被注「凌遽」音合符あり
134	31・a6	喪精亡魂	精ヲ喪ヒ魂ヲ亡ヒテ	
	18・54b		精ヲ喪〔ヒ〕魂ヲ亡〔ヒテ〕	喪・亡、送仮名なし
	21・32b		精ヲ喪〔ヒ〕魂ヲ亡〔ヒテ〕	喪・亡、送仮名なし
135	31・b1	不邀自遇	さへぎラズシテをのずから遇フ	
	53・23a		邀ズシテ自ラ一遇〔フ〕	邀作邀、自ラのみ

136	31・b4	當足見踞	足ニ當テふマレ	被注「もとめずしてみずからあへり」
	34・31b		足ニ當〔テ〕踞〔マレ〕	
137	31・b5	值輪被轆	わニあフテ轆セラル	見踞、送仮名なし
	34・31b		輪ニ值〔フテ〕轆セ〔ラル〕	值・被、送仮名なし
138	32・a1	父族之所攙掬	父一族ノひしノさしくすぬク所	攙掬、訓合のみ、送仮名なし
	10・49a		父一族之攙〔シ〕掬〔ク〕所	
139	32・a5	遊鷓高翬	遊一鷓ノきじ高ク一翬テ	
	10・13a		【遊一鷓ノきじ高翬ノきじ】	
	57・24b		遊一鷓高ク一翬〔ブ〕	遊鷓、文選読みなし
			遊一鷓高一翬	翬、送仮名なし、薛綜注曰翬飛也(注導入)
				遊鷓、文選読みなし
140	32・b3	鳥不暇舉	鳥ハ舉ルニ暇あラズ	合符のみ(薛綜注導入)
	34・31b		鳥〔ハ〕舉〔ルニ〕暇〔あラズ〕	返点のみ、送り仮名なし
141	32・b3	獸不得發	獸ハはしルコトヲ得ず	返点のみ、送り仮名なし
	34・31b		獸〔ハ〕發〔コトヲ〕得〔ず〕	
142	33・b3	獠狒狒	狒〔ヒン〕一狒ヲとり	同文(終止形)
	8・36b		狒〔ヒン〕一狒ヲとル	

	143	34・b1	盤于遊畋	遊一畋ヲたのしンデ	
		24・13a		遊一畋ヲたのしンデ	同文
	144	34・b5	其樂只且	其ノ樂ビかくばかりナリ	只且、ハカリ
		24・13a		其ノ樂ビ只一且ハカリ	被注本文に「カクハカリナリ」
	145	35・a5	犒勤賞功	つとメタルヲねぎらヒ功アルヲ賞ス	
		35・16a		勤ヲ犒（ヒ？）功ヲ賞（一）ス	和訓なし、賞に音符
	146	35・a6	酒車酌醴	酒ノ車體ヲ酌テ	酒車、訓↓音合
		35・16a		酒一車體ヲ酌テ	
	147	35・a6	方駕授饗	駕ヲ方ベ饗ヲ授ク	
		25・26a		駕ヲ方ベ饗ヲ授ク	同文
		28・14a		駕ヲ方〔ベ〕綏〔ヲ〕授〔ク〕	授、綏に誤る
		28・32a		駕ヲ方〔ベ〕綏ヲ授〔ク〕	方・授・綏、送仮名なし
				駕ヲ方〔ベ〕綏に誤る	授、綏に誤る
				方・授、送仮名なし	
				同文	同文
	148	35・a7	升觴舉燧	觴ヲあグルときハとぶひヲ舉グ	
		20・9b		觴〔ヲ〕升〔グルトキハ〕燧ヲ舉〔グ〕	燧、和訓なし、薛綜注曰燧火也
		35・16a		觴ヲ升グルトキハ燧ヲ舉グ	燧、和訓なし

149	35・a7	既醜鳴鐘	既ニのみつくシツルときハ鐘ヲ鳴ラス	醜、訓なし
	35・16a		既ニ醜クルときハ鐘ヲ鳴ラス	
150	35・b3	皇恩溥洪德施	皇一恩あまねウシテ	
	6・41b		皇一恩溥シ	溥、訓なし
	20・7a		皇一恩溥シ	溥、訓なし
	27・8b		皇一恩溥	合符のみ
151	36・b5	懷湘娥	湘一娥ヲおもワシム	懷、送仮名なし
	12・35b		湘一娥ヲ懷〔ハシム〕	懷、送仮名なし
	28・17b		湘一娥〔ヲ〕懷〔ハシム〕	湘娥・懷、送仮名なし
152	37・a2	驚蝮蟪憚蛟蛇	蝮一蟪ヲ驚シ蛟一蛇ヲをどろカス	
	4・13b		蝮一蟪ヲ驚シ蛟一蛇ヲをどろカス	同文
153	37・a4	撫紫貝搏耆龜	紫一貝ヲひろヒ耆一龜ヲとル	
	7・39a		紫一貝ヲ撫フ	撫、訓なし
154	38・b5	跳丸劔之揮霍	丸一劔ノ揮一霍ヲ跳シメテ	
	14・17a		丸一劔ノ揮一霍ヲ跳〔シム〕	跳、送仮名なし
	17・6b		丸一劔ノ揮一霍ヲ跳〔シム〕	跳、送仮名なし
	34・37a		丸一劔ノ揮一霍ヲ跳シム	同文〔跳バシメテ↓跳シム〕
155	39・a9	洪涯立而指麾	洪涯立テさシまねク	
	21・39a		洪涯立テ指一麾〔ス〕	指麾、音合符、送仮名なし



28・18a	洪涯立 <small>一</small> 而指 <small>一</small> 麾	立、送仮名なし(而、テなし)、合符のみ 指麾、音合符、送仮名なし
58・18	洪涯立 <small>一</small> 而指 <small>一</small> 麾ス	立、送仮名なし(而、テなし) 指麾、音合符、送仮名あり
156	怪獸陸梁	あやしき獸ノ陸 <small>一</small> 梁トをどテ
44・20a	怪 <small>一</small> 獸陸 <small>一</small> 梁	合符のみ
157	大雀踐躐	大 <small>一</small> ナル雀踐 <small>一</small> 躐トをどりありク
11・21a	大 <small>一</small> 雀踐 <small>一</small> 躐	合符のみ
158	海鱗變而成龍	海 <small>一</small> 鱗變ジテ龍ト成ル
11・21a	海 <small>一</small> 鱗變ジテ龍 <small>〔ト〕</small> 成ル	龍、送仮名なし
159	百馬同轡	ももの <small>一</small> 馬 <small>〔ま〕</small> 轡 <small>〔み〕</small> ヲ同シテ
11・21a	爵 <small>一</small> 馬轡ヲ同 <small>〔ス〕</small>	百作爵。同、送仮名なし
160	懷璽藏紱	璽ヲ懷キ紱ヲ藏ス
16・9a	璽ヲ懷キ紱ヲ藏ス	同文
161	促中堂之陋坐	中 <small>一</small> 堂ノ陋キ <small>一</small> 坐ヲちかづケテ
42・b3	【中 <small>一</small> 堂ノせましキ <small>一</small> 坐ヲちかづケテ】	
20・34b	陋作密 <small>一</small> 密坐 <small>一</small> 訓合符	陋作密。密坐、訓合符
162	妙材騁伎	中 <small>一</small> 堂ノ密 <small>一</small> 坐ヲちかづク
42・b4	妙 <small>一</small> 材伎ヲ騁ス	同文
9・23a	妙 <small>一</small> 材伎ヲ騁ス	同文

163	42・b7 34・37a	紛縦體而迅赴	紛トシテ體ヲ縦ニシテとクをもむクコト 紛トシテ體ヲ縦〔ニシテ〕迅ク赴ク	縦、送仮名なし。迅・赴、訓なし
164	43・a7 18・34a	麗服颺菁	麗一服菁ヲあグ 麗一服菁ヲあグ	同文
	28・16a		麗一服菁ヲ颺〔グ〕	颺、送仮名なし
165	44・a4 45・52・b	鑿戒唐詩	唐一詩ヲ鑿ミ戒ム 唐一詩ヲ鑿ミ戒ム	同文
166	45・a3 59・30b	百物殷阜	百一物さかりニゆたかなリ 百一物殷〔ニ〕一阜〔ナリ〕	殷一阜、訓合のみ（薛綜注導入）
167	45・a3 22・26b	巖險周固	巖一險周一固ニシテ 巖一險周一固ニシテ	同文
	22・35a		巖一險周一固ニシテ	同文
	22・40b		巖一險周一固ニシテ	同文
	30・26b		巖一險周一固ニシテ	同文
168	45・a3 22・26b	襟帶易守	襟一帶守レルコト易シ 襟一帶守レルコト易シ	同文
	22・35a		襟一帶守レルコト易シ	同文
	22・40b		襟一帶守レルコト易シ	同文
	30・26b		襟一帶守レルコト易シ	同文（守レル↓守ル）

## 二 異同の観察

- (一) 西京賦約八〇〇句のうちの一六八句が二三〇箇所引用されている。同文、すなわち同じ訓点であるのは五六箇所  
で、全体の二四%、逆に、不一致なものは七六%ということになる。
- (二) 不一致の場合、原則として正文の訓点が注文においては省略される表記をとる。
- (三) 同一句の引用の訓点が、注文同士で異なるものが少なくない。それが表記の問題に止まらないものは後述する。
- (四) 正文で訓合符を使って読まれるものが、注文では音合符で読まれるものがある。32,33,37,48,49,51,55,91,120,132,146,155,157.などがそれであり、その逆はほとんどない。
- (五) 本文で文選読みがなされ、李善注においても文選読みされるのは二六の「嘉卉灌叢(よきくさ灌一叢トあつマル)」が  
唯一の例である。
- (六) 逆に、8,13,15,16,19,31,34,40,45,46,47,50,62,66,68,70,71,73,77,80,84,87,92,111,112,114,117,139などは、李善注では圧倒的に本  
文の文選読みを採用していない。
- (七) 14,16,19,32,33,43,46,47,51,80,81,83,86,98,111,121,127,128,128,131,139,150,155,156,157,166などは、コメント欄に「合符のみ」  
「訓合のみ」と記したものは、元来、レ点や一二点を必要としない文構造である。李善注においては読み仮名や送り仮  
名が付されない。
- (八) 動詞の活用語尾を省略するものが少なへない。1,2,3,25,27,28,29,30,44,45,58,59,66,69,82,89,90,92,96,99,104,108,109,113,115,1  
24,133,134,136,137,138,139,140,141,147,151,154,155,159,164などは。
- (九) 「テ」「ヲ」「トモ」などの助詞を省略するものがあへる。24,39,52,60,66,69,74,75,99,105,108,113,120,124,134,136,137,140,141,

148,151,155,158 なふ。

- (十) 使役の「シム」を省略することがある。23,151,154 なふ。  
 (十一) 「モ〔シ〕」「ソ〔レ〕」など、末仮名を省略することがある。42,67 (活用語尾でもある)、73,96 なふ。  
 (十二) 53では注文同士に「穹隆ス」「穹隆タリ」の品詞の違いがある。  
 (十三) 87では注文同士に「弘敵ナリ」「弘敵タリ」のように「ナリ」「タリ」の違いがある。  
 (十四) 110では注文同士に「悪スル所」「悪ム所」のようにサ変動詞にするか否かの違いがある。

【参考文献】

- 岡田正之 1954 『日本漢文学史(増訂版)』東京 吉川弘文館  
 小島憲之 1962 『上代日本文学と中国文学 上』東京 塙書房  
 小林芳規 1967 『平安鎌倉時代に於ける漢籍訓讀の國語史的研究』東京 東京大学出版会  
 斯波六郎 1957 『文選諸本の研究』広島 斯波博士退官記念事業會  
 富永一登 1996 『文選李善注引書索引』東京 研文出版  
 吉田金彦 1959 『宮内庁書陵部蔵本六臣注文選の訓点』(『訓点語と訓点資料』第十二輯) 京都 訓点語学会

【底本】

- 『六臣注文選』慶安五年(1652) 佐野治左衛門刊(複製は『和刻本文選』東京 汲古書院 1974)  
 『六臣注文選』寛文二年(1662) 野田庄右衛門・八尾勘兵衛刊